

勢和小学校だより

明日も行きたくなる勢和小

～楽しく笑って過ごせるように、目標に向かってあきらめず、やって、考え、工夫しよう～



発行日: 令和8年6月16日 第6号

子どもたちが安心して育つために ～「違いを認め合う」ことの大切さ～

私たちは普段、「差別はいけないこと」と考えています。

しかし、差別は特別な人が起こすものではなく、日常の中の“思い込み”や“あたりまえ”から生まれることがあります。

例えば、「普通はこうするよね」、「あの子は落ち着きがない」、「どうしてできないの?」といった何気ない言葉や見方が、知らないうちに子どもを傷つけたり、「自分は認められていない」と感じさせたりすることがあります。

■「みんな違う」が当たり前

子どもたちは、一人ひとり違います。「得意なことや苦手なこと」、「性格」、「家庭環境」、「発達の特性」、「成長のスピード」は同じではありません。

しかし、「みんな同じようにできるはず」という見方が強くなると、できない子や違う子が苦しさを感じやすくなります。

大切なのは、「違いがあって当たり前」という視点です。

■子どもも大人も、失敗しながら成長します

子どもたちは、失敗や経験を重ねながら成長していきます。時には友達とぶつかったり、うまく言葉にできなかったり、間違った行動をしたりしてしまうこともあります。

それは、大人も同じです。

だからこそ、

○失敗だけでその子を決めつけないこと

○「できなかったこと」を見るのではなく、変わろうとする姿を見ること

○やり直す機会を大切にすることが必要です。

子ども同士の関係は、とても繊細です。大人の言葉や態度によって、「問題のある子」「いつもトラブルを起こす子」という見方が広がってしまうことがあります。

しかし、子どもは周囲との関わりの中で変わっていく存在です。

たとえ何度失敗したとしても、大人が一方的な見方を広げたり、子ども同士の関係を固定化したりしないことが大切です。

学校でも家庭でも、「誰もが成長していく存在なんだ」という視点を持ち続けたいと考えています。

■子どもの成長や変容を認め合う

子どもは、昨日できなかったことが今日できるようになることがあります。逆に、うまくいかない時期が続くこともあります。

だからこそ、過去の姿だけで見続けず、「前より頑張っているね」「少し変わってきたね」と、成長や変化を認め合うことが大切です。

ご自身のお子さんに限らず、周囲の子どもたちの成長も見守ることで、全ての子どもたちが安心して過ごせる集団づくりにつながっていきます。

■家庭で大切にしたいこと

ぜひ、次のような関わりを大切にしていいただければと思います。

- 子どもの話を最後まで聞き、まずは「そう感じたんだね」と受け止める。
- 「普通はこう」ではなく、「いろいろな人がいるね」と考える。
- 兄弟姉妹や友達と比較せず、その子の成長や変容を認める。
- 失敗を責めず、「次、どうする？」を一緒に考える。
- 「あの子も頑張っているね」と温かく見守る。

学校でも家庭でも、「違いを認め合うこと」「失敗してもやり直せること」「成長や変化を信じること」を大切にしながら、子どもたちが安心して過ごせる環境をつくっていきたいと考えています。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。